

祝！同窓生が母校の准教授に就任

「就任のご挨拶」

琉球大学医学部附属病院光学医療診療部 准教授・部長 外間 昭（2期生）



平成26年4月1日に琉球大学医学部附属病院光学医療診療部の准教授・部長を拝命致しました2期生の外間昭と申します。琉球大学医学部医学科の同窓会の皆様にご場をお借りしてご挨拶申し上げます。

私は、昭和63年琉球大学を卒業し、斎藤厚教授が主宰する歴史ある第一内科（感染症・呼吸器・消化器内科学講座）に入局しました。併せてウィンドサーフィン部の顧問でもお世話になっていた岩永正明教授の細菌学講座の大学院に進み、「腸管病原菌の定着因子の解明」の研究で医学博士を取得しました。病院診療では、金城福則准教授のご指導のもと下部消化管グループとして潰瘍性大腸炎やクローン病などの難治性の炎症性腸疾患の診療に携わり、多くの関連病院で研修を積みました。一方、平成11年から2年間米国ボストンのハーバード大学マサチューセッツ総合病院の免疫病理学教室に留学し、炎症性腸疾患研究で高名なAtul Bhan教授と溝口充志先生（現、久留米大学免疫学講座教授）のもと私自身の主研究となった「腸炎発症の自己抗原Galectin-4」を発見する幸運に恵まれました。平成17年からは、藤田次郎教授の高い理想とご指導により感染症、呼吸器と消化器の各グループが切磋琢磨しながらも一致協力して診療し研究する新しい第一内科で、医局長と講師を務めさせて頂きました。現在は外来や内視鏡診療ばかりでなく、若手医師や大学院生と共に腸結核・サイトメガロ腸炎・糞線虫症・Whipple病の免疫病理学的研究、炎症性腸疾患における生物学的製剤の治療効果や全身性炎症に関連した消化器疾患の臨床研究に邁進しております。

さて、光学医療診療部は、消化器内視鏡と呼吸器内視鏡で診

療を行う全ての診療科と密接に連携した中央診療施設の部門です。平成13年に創設された比較的新しい部門ですが、院内の全診療科のご協力を仰ぎながら年間3300件の内視鏡診療を行い、高度医療を担って参りました。近年では消化管腫瘍の内視鏡治療、消化管・肝胆膵・気管のステント治療、小腸内視鏡などが日進月歩の目覚ましい発展をみせています。何よりも安全な医療を心掛けながら、地域と連携し大学病院ならではの診療と研究を行いたいと思います。

母校で責任ある立場となることはとても名誉なことです。元来教えることが大好きな私ですので、病院や医学部の若い「人材」を育てることに大きな喜びを感じています。教える立場とはいえ、実は私自身が学ぶことばかりです。毎日楽しく接している若人は私には宝物のようであり、正に「人材」ともいうべきで、専門医の育成と学生の教育に携わる立場を与えて頂いたことへの感謝と責任の重さをひしひしと感じています。これまでに私自身が多くの素晴らしい先生方に教え導かれたことへのご恩返しに、自らが光学医療診療部と琉球大学医学部の発展の為、全身全霊で臨む所存です。今後とも同窓会の皆様のご指導とご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。



6年生と共に